

# 平成 29 年 6 月町議会定例会一般質問通告概要

(H29. 6. 5～16)

## ※ 質問順番

1 番	内山 昭	議員	4 番	後藤 智文	議員
2 番	広島 秀一	議員	5 番	澤井 峰子	議員
3 番	桑原 米蔵	議員	6 番	岡田 健治	議員

## 1 番 内山 昭 議員

### 1 称名滝遊歩道の通行の再開について

例年 4 月下旬には開通している称名滝の遊歩道が、今年は積雪多量や落石のため、8 月下旬に遅れている。山小屋やドライブインの経営など観光業への影響も大きいと見込まれるが、県に対し町は、どのような早期開通の働きかけを行っているか。

### 2 こども医療費助成における窓口負担無料化の対象医療機関の拡充について

高岡市など県西部では、中学生までのこども医療費助成制度を 6 市で統合している。立山町ではこども医療費助成について今年 10 月診療分から、中新川郡内における医療機関での窓口負担の無料化が中学生まで拡充されるが、対象医療機関を富山市内等にまで拡充できないか。町の考えと今後の対応を問う。

### 3 教職員の長時間労働の実態について

昨年の公立校教員勤務実態調査では、学習指導要領の改訂で授業時間が増加した事に加え、休日の各種イベントの開催や部活動指導などで、小学校で 3 割、中学校 6 割の教諭が週 60 時間以上勤務していたと判明した。社会福祉士が子どもたちの家庭の相談にのったり、外部指導員が部活動指導を担うなど、教員を支える体制作りが始まっているが、立山町の実態は。

### 4 通学路の安全確保について

一昨年頃より、野口地区の新興住宅団地から利田小学校に通学する経路で、歩道のない側が通学路となり、非常に危険な状態が続いている箇所がある。6 月の通学路安全推進会議の点検にあたり、用水の欄干の左右に 2～3 メートルの転落防止策を設置するなどの安全確保の改善策を講じてほしい。

### 5 食品ロスの削減の取り組みについて

とやま環境財団は、料理を無駄にしないため、宴席冒頭の 30 分と最後の 10 分は自席で食事を楽しむ試み「30.10 (さんまるいちまる)」運動の推進を呼び掛けている。立山町商業協同組合でもいち早く導入されているが、町としての具体的な計画はあるか。

## 2 番 広島 秀一 議員

### 1 空家等の対策について

立山町の空き家の定義や調査方法はどのようなものか。特定認定空家として認定された 2

軒については、取り壊しが完了したが、町内には他にも危険な空き家があると思われる。現状と今後の取り組みを問う。

## 2 米の作付けについて

29年産米主食米の減反については、約8割の地域農業再生協議会が生産数量目標を達成する見通しになり、県内15市町村全て達成が見込まれる。しかし30年産米から国から配分されないと聞くと聞くと、今後の生産数量目標の設定はどうなるのか。

## 3 民生委員について

民生委員は公民館や社会福祉協議会など多種多様な仕事に携わり、忙しすぎると聞く。本来の仕事に専念していただきたい。

## 3番 桑原 米蔵 議員

### 1 町の広報公聴活動について

- (1) 町政懇談会が言いっぱなし、聞きっぱなしで終わることなく、実りあるものとなるよう工夫を凝らしてほしい。
- (2) 若者等との車座ミーティングについて、成果はどのようであったか。また町民に対する広報公聴活動について、町長の基本的な考えを問う。

### 2 公立図書館を活用した町づくりについて

多くの公立図書館において、地域振興や町づくりを目的とした事業が行われている。図書館での事業の取り組みにより、利用者増や住民交流の促進につながるのではないかと問う。

### 3 鳥獣被害対応に関する自治体の連携について

隣接する市町村の境界付近に熊が出没し、地元テレビでその情報連絡が遅いとの指摘があった。関係自治体との緊密な連携や、住民への迅速な情報提供など、被害未然防止にどのように取り組むのか。

### 4 稼動から15年が経過する富山地区広域圏2代目クリーンセンターについて

- (1) 点検・整備補修等どのように行われているか。
- (2) 最終処分場の問題点は
- (3) 南砺市からの可燃ごみの受け入れについて
- (4) ダイオキシン類等の有害物質の調査は、今後ますます重要になると思うがどうか

### 5 4月の人事異動での新副町長・各課長に伺う

- (1) 新副町長の抱負等について
  - イ 町職員の資質向上について。副町長に就かれて2ヶ月あまり経つが、立山町の職員の資質等をどのように感じられたか。
  - ロ 町事業の執行に当たり、必ずしも県の意向と一致しないケースや、県に研修派遣された町技術員が県職員に採用された事案がある。県と町の緊密な連携や、良好な関係構築が肝要であると思うが、現状をどのように認識し、どのように取り組もうとするのか、抱負と併せて問う。
  - ハ 富山広域圏の構成5市町村での連携事業を進める、中枢都市圏への実務者協議がスタートした。どのように考えているのか。

- (2) 新建設課長の抱負等について
  - イ 各地区要望の大半は、道路等の改修整備である。自らの目と足で対応してほしい。
  - ロ 停滞する建設業界が抱える課題をどのように捉え、今後特に立山町において何を重点に取り組むのか、抱負とあわせ問う。
- (3) 新会計課長の公金管理について
  - イ 町の公金については、安全に管理されていると思うが、状況について問う。
  - ロ 支出に当たっては、厳格な上にも厳格な審査を行うべき。新管理者の審査の心構えについて問う。

## 4番 後藤 智文 議員

### 1 町長の政治姿勢について

- (1) 4月19日の高岡政経懇話会で片山善博氏は「地方は対外的に地場産品や観光の宣伝をしているが、意外と自分の地域を大事にしていない。『地域ファースト』の考え方が必要だ」と述べられている。ファーストという言葉は好きではないが、この考え方には共感するところがあるかどうか。
- (2) テロ等準備罪（共謀罪）法案が衆議院で可決され、参議院で審議されている。内心まで処罰の対象になる法案だが、町長として町民への影響をどう考えるか。3月議会に引き続き再度問う。
- (3) 全国植樹祭における植樹場所に上市町から東部の市町が選ばれている。優良無花粉杉「立山 森の輝き」が生まれた立山町がどうして選ばれなかったのかと、町民の声がある。選考過程はどうだったのか。

### 2 町農業について

- (1) 来年度から制度が大きく変わるが、今後の町農業に対してどのような展開を考えているか。
- (2) 有機農業（無農薬）で町おこしを進めている自治体がある。今後の町農業の展望として有機農業を推し進めることはできないか。
- (3) 稲の新品種の「富富富（ふふふ）」が来年度から奨励されるが、町はどのように取り組むのか。
- (4) 霊峰立山を抱く町として、行者にんにく栽培を拡げ、特産化を図っていくべきではないか。

### 3 国民健康保険について

- (1) 来年4月から県で統一されることになるが、保険料の納付や給付などの仕組みはどうなるのか。
- (2) 町民からすれば健康保険料が高くなるのは困るという心配の声があるかどうか。
- (3) 保険料の県内統一は無理があると思うが考えはどうか。
- (4) 県から示される税の納付率は100%となっている。滞納者に対しての取り立てが強くなる事はないか。

### 4 町活性化のために

- (1) 町営バスについて
  - ① たくさんの路線が設定されてきているが、北部循環線は1日1往復しかない。南北での循環バスという考えのもと、統一し、回数を増やすことが町活性化につながると

思うかどうか。

- ② 町中心部で行われる事業や店が多いということから、もっと人を集めるために1回200円を100円のワンコインにすれば町活性化につながると思うかどうか。
- (2) 町内中小業者の仕事起こしと住民生活向上のために、住宅リフォーム補助制度を作るべきではないか。

## 5 消防団詰所について

- (1) 立山分団詰所は、建築されて37年になる。同時期に建築された詰所は建て替えが進み、立山分団詰所が一番古くなるが、今後の建て替え予定はどうか。
- (2) 立山分団詰所以外にも相当年月が過ぎた詰所がある。今後の取り組みを問う。

## 5番 澤井 峰子 議員

### 1 平成30年11月開催予定のねんりんピックについて

立山町では、第31回全国健康福祉祭（ねんりんピック）においてウォークラリーが開催される予定で、実行委員会が立ち上がった。

- (1) 昨年、答弁を頂いたのは健康福祉課であったが、現在の所管は教育課となっている。理由を伺う。
- (2) 11月は町主催のイベントも多い時期であるが、ねんりんピックへの対応は多種多様である。人材育成の観点からもねんりんピックにむけ、各課から募ったプロジェクトチームなるものが必要であると考えますが、見解を問う。
- (3) 現段階での立山町での交流大会の詳細を伺う。
- (4) 高齢者を中心とした健康と福祉の祭典であることから、どのような取り組みを考えているかを問う。
- (5) 観光案内所をスタート・ゴールとした、平坦地観光中心のまちなかウォークラリーコースを作成してはと思うが見解を伺う。

### 2 地域おこし協力隊について

隊員は全国的にも20～30代が多く、任期中に出産・子育てを迎え、男女問わず任期半ばに退職せざるを得ないケースが見受けられる。立山町では現在4名の隊員が頑張っておられるが、今後さらに、女性や子育て世帯の協力隊の定住促進に向け、要綱を含めた制度の進化が必要である。町の考えを問う。

### 3 福祉について

- (1) 厚生労働省は、育児と介護を同時に担う「ダブルケア」や障害を持つ方の周囲の高齢化に対し、「地域共生社会」づくりの一步として、相談窓口の一元化を示している。町でも総合的な相談窓口が必要である。見解を伺う。
- (2) 我が町での「ヘルプカード」の導入を提案する。外見からはわかりにくい障がいを持つ方が、災害時や日常生活で困った時に周囲に支援依頼を示せるものである。
- (3) 併せて、「介護マーク」の導入も必要であると考えます。これは、介護している家族など「介護中です」と示すことで外出時、異性のトイレ介助などに有効とされている。

### 4 住宅用火災警報器について

設置義務化から10年が経過した。住宅用火災警報器の電池の寿命が10年であることから、いざという時に作動しない可能性が大きくなっている。今一度、電池の交換や作動確認への呼びかけを行い、未設置の方には啓蒙活動を。対策を問う。

## 5 こども医療費について

本年10月よりこども医療費の窓口負担がなくなるが、福祉医療費請求書（ピンクの用紙）の電子化について伺う。

## 6番 岡田 健治 議員

### 1 「選ばれる町」方策の効果と現象を、どう評価しているか

町長は人口減対策について「人口の緩やかな減少に留めたい」との意向で各施策を実行してきたが、どのような成果が現象として現れているか。全体の状況は好転しているか。どの数値から読み取るのが適切か。

### 2 学校教育と生涯教育の進捗状況はどうか

5月に町の教育要覧が発行されたが、学校教育に偏向し、生涯教育の影が薄くなったように感じる。生涯教育の切捨てにならぬよう、幼児教育、社会教育、成人教育などにも予算配分・人的配置をすべき。チャイルドからシルバーエイジまで、生涯教育の視点から、施策の充実と展開を。

### 3 緊迫する北朝鮮情勢を受け、ミサイル発射を想定した避難訓練を

北朝鮮から弾道ミサイルが発射された場合、日本にはおよそ6分で着弾すると見られており、訓練が何分で完了するかが問題となる。国は、弾道ミサイルが発射された場合は、落ち着いて頑丈な建物などに避難する等の指針を出しているが、Jアラート等の連絡による避難体制が必要では。

### 4 各学校に配置した電子黒板の効能について

タブレット端末を導入する小学校が時代の主流の中、立山町では全教室に電子黒板を配置した。その効果や効率は。タブレット端末導入との違いはなにか。時代の先端を学ぶ予算を構築すべきと思うがどうか。

### 5 県ドクターヘリ運航3年経過に伴う町消防本部の対応について

空飛ぶ緊急救命室、県ドクターヘリの運航がスタートしてから3年になるが、町の要請回数等はどのような状況か。またランデブーポイントも数ヶ所あると思うが、地区自治会や住民にもPR・周知しておく必要がある。広報等でも掲載されたが、保存版での配布の検討を願う。

### 6 公共施設等への防犯カメラの設置について

犯罪や事故の防止・抑制、発生の原因究明、資料の有効活用の観点から、各学校のみならず、公共施設、幹線道路への防犯カメラの設置について、見解を問う。